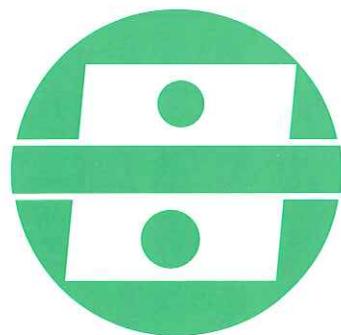


母親クラブ

第14号

みらい子育てネット

だより



発 行

全国地域活動連絡協議会

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1

財団法人 児童健全育成推進財団内

TEL. 03-3797-8183

FAX. 03-3486-5142



「お父さんの子育て」フォト
応募作品

「自然の中でのんびりと」…娘よいつまでも一緒に遊んでくれるかい。 応募者:竹田市ひよ子クラブ 広瀬かや様

< 目 次 >

- 新年のご挨拶
- 母親クラブによるモデル事業
- 特 集
「遊び場の安全点検」
- 平成17年度指導者研修会報告
- ブロック別活動報告
- 子育てNPO指導者養成研修会
- みんなで子育て研修会
- フォトギャラリー
「お父さんの子育て」
- 児童館紹介
- 事務局だより

会長挨拶



全国地域活動連絡協議会
会長 重田 強子

存在感のある組織として

二〇〇六年を迎えたみなさま、それぞれ「今年こそ」と何かを決意されたことだと思います。事件、事故、災害のない平和な年にと願うのは誰もみな同じですが、ことに子どもに関しては、昨年のような痛ましいことが再び起こらないよう、地域活動として「児童の事故防止活動」のさらなる充実が時のニーズに応える一番近い事業だと意を強くしました。「遊び場の遊具点検」に加えパトロールで気づく「安全な公園づくり」へと展開することにより事故や事件の未然防止に繋げると考えます。

この活動が地域ぐるみ、家庭ぐるみで取り組まれば、大人も子どもお互いを知る場となり住民同士のネットワークも深まります。

子育てを応援する沢山の目や耳があることを、こうした日常活動の中でのピールし、「子どもの安心、安全をみんなで創ろう」という雰囲気をリードしていくけば、地域活動の存在もより確かになると思います。

誰に出会つても安心してあいさつができ、言葉が交わせるまちづくりは、地域住民が生活の中でもれあうことによつてお互いを知り、そこに安心が生まれ、雰囲気がつくられています。「まちの子は、みんなわが子」、全地協の合言葉を常に心に置きながら、今年もなくてはならない組織として、持てる力を充分に發揮されることを願つてやみません。

また、子どもが被害に遭う事件も後を絶ちません。昨年末には、広島県及び

全国で母親クラブ活動に取り組む会員の皆さま、あけましておめでとうございます。

昨年も合計特殊出生率が「二・九」と一昨年と同様、過去最低の数値となつたところであります。少子化が進む中、子どもが健康に育つ社会、子どもを生み、育てることに喜びを感じることができます。

できる社会への転換をめざし、平成十六年十二月に五年間の具体的な施策内容と目標を掲げた「子ども・子育て応援プラン」が策定されたところです。平成十八年度は、「子ども・子育て応援プラン」の一年目ということで、このプランの着実な推進を図っていくこととしております。

さて、母親クラブは、子どもの幸せを第一に考え、児童館等を拠点として親子や世代間の交流及び子育て支援活動、遊び場の安全の確保など、子どもたちの健全育成に寄与する地域の活動団体として、これまでも全国各地で大きな役割を果たして頂いております。

一方、子どもを取り巻く環境は年々変化しております。児童虐待に示されるように、育児不安の増大から、子どもを育てることが喜びではなく負担になるという子育ての困難な状況も生まれています。

また、子どもが被害に遭う事件も後を絶ちません。昨年末には、広島県及

年頭挨拶



厚生労働省
雇用均等・児童家庭局
育成環境課長 東 泰秀

び栃木県において小学校児童が下校途中に殺害されるという残虐で痛ましい事件が相次いで発生しました。

児童の安全確保については、前述の「子ども・子育て応援プラン」の中でための取組を推進するため、母親クラブ等によるパトロール活動等を行うことが掲げられているところですが、今回件をうけて、厚生労働省から母親クラブの活動について、更なるご尽力をお願いする通知を出させていただいたことは既にご承知のとおりだと思います。

国としても、関係省庁で連携を強化し、児童の安全確保と再発の防止に全力を挙げて取り組んできているところであります。

地域に密着した活動をされ、また、子どもや子育てに関する知識や経験が豊富な母親クラブにおかれましても、地域の子どもが安心して、安全にのびのび育つ環境づくりのため、今まで以上に役割を發揮していただきたいと大いに期待しております。

また、そのためにも、母親クラブの更なる基盤作りが是非とも必要だと思われます。会員の増員、ファンとの形成、各地域協議会における次期会長の養成など課題が山積みとなつていまます。この課題に真摯に取り組み、着実な前進を続けることが母親クラブの一層の発展につながるものと思います。

最後に、母親クラブの皆さん方の日頃の活動に感謝申しあげますとともに、本年も皆さんにとって良い年となりますようお祈り申しあげます。

全国地域活動連絡協議会 役員紹介

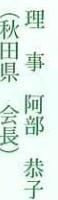
平成十七年度役員体制



会長 重田 強子
(山口県 会長)



副会長 中村 京子
(群馬県 会長)



理事 阿部 恵子
(秋田県 会長)



理事 高木 美恵子
(大分県 会長)



理事 和田 麗子
(富山県 会長)



監事 子山 早知子
(仙台市 会長)



理事 松本 健一
(常勤理事 事務局長)



監事 半田 百合枝
(北九州市 会長)

母親クラブによる地域の安全づくりモデル事業

母親クラブによる地域の安全づくりモデル事業とは



厚生労働省雇用均等・
児童家庭局育成環境課
児童健全育成専門官
鈴木 雄司

昨年の秋、広島県、栃木県で相次いで起きた女児殺害事件は、犯罪から子どもを守り、地域における子どもの安全を確保することが、重要な課題であることを改めて示しました。

こうした事態を未然に防ぐために、国では、平成十六年十一月に、「子ども・子育て応援プラン」を策定し、「子どもを犯罪から守るための取組の推進」として母親クラブ等による自主的なパトロール活動を行なうなど、その役割を具体的に明記してきたところです。これは、これまで母親クラブが行なってきた交通安全活動や遊び場の遊具等の安全活動の経験を活かして、地域での安全確保を一層推進されることを期待したものでです。

こうしたことから、地域での安全確保の活動をさらに発展させるために、平成十六年度に全国の六つの地域で「母親クラブによる地域の安全づくりのモデル事業」に取り組んでいたところになりました。このモデル事業の活

動で、後の報告にもあるように関係者の方々のご努力により、時宣を得た貴重な成果が生まれ、地域の特性に応じた具体的な事例を、全国大会やブロッサ研修会で全国の母親クラブに示すことができました。

モデル事業では、地域との新しい結びつきやこれまでにない関係機関との連携が生まれたことや、地域のニーズに合わせ、地域ごとの創意工夫ある活動が展開されました。地域から高い評価を受け、行政全体の取り組みとして成果が施策に活かされたところもあります。さらに、フォーラム、報告会などを行なうことで活動を総括し、地域やマスコミ等に発表するなどして、成果を広くPRしています。

【秋田県横手市大雄】

子どもの安全の確保を推進する
地域での安全パトロール



安全と防犯の中で、
正しい“生と性”を学び、
命の尊厳をはぐくむ

平成十七年度モデル事業紹介

今年度も母親クラブと行政、地域が連携して、子どもの安全確保を推進するために行なうきめ細かなパトロールへの取組、また、児童虐待の予防・早期発見を目的に次の六箇所（県・五市）で実施しています。



子どもの安全・安心は、
学校・家庭・地域社会ぐるみで

【山形県鶴岡市】

【秋田県横手市大雄】

子どもの安全の確保を推進する
地域での安全パトロール



安全と防犯の中で、
正しい“生と性”を学び、
命の尊厳をはぐくむ

【兵庫県】



子ども110番の家の充実と
地域を見守るパトロールを
全市的に実施

【山梨県南アルプス市】

「遊び場巡回パトロール中」というよう
なステッカーを配布し、自家用車にはり、
買い物等へ行く際に遊び場を見てもらう。



地域での児童虐待の予防
早期発見に対する取組

【山口県宇部市】



まちの子は皆 我が子
我が子のために
まちの危険箇所撲滅を!

パネルや絵本を使い児童虐待の予防に向けた子育て不安の軽減

特集：遊び場の安全点検

公園の防犯活動

「犯罪からの安全」という視点からー

子ども達が犯罪の犠牲になる事件が後を絶たない状況である。一昨年の暮れには奈良市で下校途中の小学生が痛ましい犯罪の犠牲になった。昨年も暮れが迫った十一月二十二日に広島で下校途中の小学生が命を落とした。毎年のようにこうした事件が繰り返されるようになつてきている。命を奪われるまでとは行かないような事件は毎日のように起きている。

道路とともに子ども達が犯罪に遭う危険空間の代表的存在とも言える公園について、「犯罪からの安全」という視点から安全点検の方法を開発している。母親クラブでは、昨年まで公園の遊具の安全点検に取り組み多くの成果を上げてきた。

こうした力に依拠して今度は、犯罪の視点で公園の安全点検の手法を作ろうというのである。犯罪からの安全という視点は緊急を要するわりには殆ど手がついでいる分野である。公園についても殆ど意識されずに来ている。突然樹木を切り倒したりする状況すら生まれている。見渡しが良いだけでは面白くなく子ども達も寄り付かなくなつたりすれば、逆に人影の少ない危険な空間になつてしまふ。公園は楽しくて安全な空間であることが必要なのである。

こうした問題意識で公園の安全点検という未曾有の分野に踏み込んで母親クラブの会員さんたちは大いに苦労をしているわけである。

調査・点検・対策へー

今回の取り組みはモデルケースとして、秋田、

足利、姫路、倉敷、北九州の五つの母親クラブ

取り組みのステップ

調査・企画委員会の設置 専門部会の設置

委員長 玉川大学教育学部教授 中村攻

千葉大学園芸学部教授 萩須隆雄

葛飾区都市整備部公園整備課長 吉田眞

茂原市健康福祉部児童家庭課係長 鶴岡一宏

秋田市泉児童センター母親クラブ代表 湯浅あやめ

足利市八幡地域活動クラブ代表 上岡恵子

姫路市東児童センター母親クラブ代表 原睦美

倉敷市万寿の子会東母親クラブ代表 原田明代

北九州市地域活動連絡協議会会長 半田百合枝

① 地域全体(小学校区)実態調査

アンケート調査

対象 小学4~6年生

内容 子ども達が犯罪の危険にあつた

場所、被害の内容、時刻等を調査

アンケート回収・集計

犯罪危険地図の作成

公園の遊具点検

今年度も七月第一日曜日からの第二回「遊び場安全点検週間」に、全国各地で遊び場遊具等の点検が行われました。昨年度と比較すると、点検活動に参加した単位クラブ数は、約二六〇増えて千百三十クラブ、参加会員総数も千四百人増え約九千二百人でした。また、点検が行われた街区公園、児童遊園、団地内遊び場等の総数も五百カ所多い千九百カ所となっています。

遊び場遊具による子どもの事故防止のためには、普段からのこまめな遊具の安全点検、状況に応じての適切な修理等が必要であるほか、遊具を利用する子ども自身や付き添いの保護者・大人が遊具に不具合があるかを判断でき、状況により遊具の利用を避ける、ガラス・金属破片・ロープ等の事故に結びつきそうなもののを取り除く、遊びにふさわしい服装・履物であること等を理解し、実行できることが期待されます。

このために、昨年度から安全点検週間に幼稚児、小・中学生の積極的な参加を呼びかけるとともに、点検活動後に小学生に遊び場での事故防止に関するアンケートに協力を依頼しています。点検には約四千人の小学生の参加がありました。子どもたちにとって、安全教育の機会として欲しいものです。

各単位クラブからの報告内容を見て、今後の活動をさらに充実、発展させるために、次のようにいくつかの課題があるように思います。まず、点検活動を終えた後、遊び場を設置管理している市町村の担当課係や団地管理センター等に「報告をしていない」という単位クラブが参加クラブ総数の約四〇%あることです。不具合な状況がまったくなければ、報告

で取り組んでいる。ここで安全点検の手法が定式化されれば、来年度は多くの地域で取り組めると予定である。

取り組みの中身は大きく分けて二つの部分から構成されている。第一段階は公園に限らず地域全体（小学校区）を対象にして、子ども達が犯罪の危険にあつた場所とその時の状況を調査している。この調査は子ども達の危険な状況は大人達の認識をはるかに超えるものであることから明らかにし、地域の関心をこの問題に集めてくる。その上で第二段階として対象を公園に絞つて安全点検をやろうということである。

公園の安全点検は、三つの観点から進めるこ

とにしている。一つは公園内部の点検である。遊具や樹木は建物等の位置や形や使い方の点検である。二つめは公園に接する部分の使われ方や形の点検である。公園の安全はその公園に接する空間の状況によって大きく左右される。三つめはもう少し広く公園の周りの環境の点検である。駅や盛り場に近いか。空き地や荒地が多いか。車の通りは多いか。といった事項の点検である。こうしたことを通して公園の危険を見分けそれを安全にしていく力を地域の住民がつけていく方法を開発しようというものである。



【筆者紹介】

中村 攻(なかむら おさむ)

【プロフィール】

1942年生まれ。千葉大学園芸学部教授。
都市のオーブンスペースの計画や子ども遊びと犯罪空間について研究している。
著書「子どもはどこで犯罪にあっているか」
晶文社 ほか

第二回 調査・企画委員会

②公園の安全点検調査

調査場所
対象を児童遊園・公園
に絞つて安全点検
(四~五カ所)

体制
一チーム当たり五~六人
公園チエックリストを活用
して危険箇所を調査



第三回 調査・企画委員会

③危険箇所の対策

危険箇所現場調査の結果を分析し、
対策案を検討

※行政、警察、学校や
地域の他組織との
連携など母親クラブ
において、でき
ることを考える



第四回 調査・企画委員会

④全国展開へ

公園安全点検マニュアル作成

※全国一斉展開 (平成十八年十一月)



【筆者紹介】

荻須 隆雄(おぎす たかお)

【プロフィール】

玉川大学教育学部教授。
母親クラブによる遊び場の遊具点検
及び事故防止活動の調査研究を含め
子どもの事故防止や安全教育を中心
に研究をしている。
著書「遊び場の安全ハンドブック」
玉川大学出版部 ほか

の必要はないとも言えます。しかし、今回の点検では、点検した全遊び場の約七七%に何らかの不具合があると報告されています。これまでの遊び場遊具により発生している重大な事故の多くは、さまざまな不具合が利用する子どものみならず、保護者等大人や遊び場管理者に気づかれずに、遊具やその周辺に存在していることです。子どもに気づかれずに放置されている不具合を早期に発見し、状況に応じた迅速な修理、一時使用中止等の対応をとることにより、未然に重大事故を防ぐことが可能です。

点検活動後に管理者に報告する仕組みがまだできていない単位クラブには、来年度の一斉点検に向けて、その準備をして頂きたいものです。遊具の安全点検に必要な専門知識・技術を持ち合わせていない母親クラブによる点検の結果、不具合と判断されても、専門技術者からみれば健全な状態というものも多いと思います。しかし、写真記録による事例報告を見ると、重大な典型的な不具合も少なくありません。

市町村等の担当者の皆様には、母親クラブ会員の目・手による点検活動は、地域の子どもたちの安全を見守る力になるであろうことをご理解頂き、この活動を育て見守って頂きたいと思います。

全国大会

平成十七年度指導者研修会報告

第三十二回地域組織活動指導者全国大会が、平成十七年七月十四・十五日 の二日間にわたって仙台市情報・産業プラザを会場として開催されました。一日目は、開会式に続き表彰式があり、個人六十五名と、三十二団体が表彰されました。厚生労働省の鈴木専門官から「子どもを取り巻く環境や少子化の現状及び子ども子育て応援プランの概要等について」行政説明があり、また母親クラブの課題として、これまでの活動経験を踏まえて、地域の現状の把握と時代に合った方法の工夫と実行の必要性が述べられました。

講演会は「心の食べ物づくり」(読み語りをフルートにのせて)の演題で絵本作家とよたかずひこ先生の語りとフルーティストの若松久仁光先生による演奏とで進められました。絵本の読み聞かせは、創造力を刺激し、夢の世界を広げるなど子どもの心を豊かにし、人間形成にとても役立ちます。作品を読み聞かせながら話しがけることで、子どもの考える力を養ったり、やさしさや譲り合う気持ちを育むことも改めて感じさせられました。

フォーラムでは、「ちがうみんながう夢おんなんじ大きな未来」(地域ではぐくむ子どもの夢)をテーマとして、コーディネーターに鈴木一光氏、パネリストとして大学助教授や保育園の園長、児童委員協議会部会長の方々がそれぞれの立場から意見を述べられました。三名の方々からは、今の若い親達の中、子育てが未熟であつたり、自信を失っている人が増えているといふ共通の見方が示されました。そうし



記仙台市地域子育て支援クラブ連絡協議会
副会長 佐藤 栄子

た若い親達に対して、母親クラブの会員が保育所・保育園「子育てサロン」などと連携を図り、協力することへの期待が述べられました。意見交換会は、ホテル法華クラブに会場を移して行われ、その席で門前女性合唱団による童謡のすばらしい歌声を聞かせてもらいました。また全員で合唱し楽しい時を過ごしました。二日目は、全地協から事業報告及びモデル事業概要報告がありました。続いて平成十六年度「母親クラブによる地域の安全づくりモデル事業」の事例発表が、岩手、群馬、福井、兵庫、山口、佐賀の各県のクラブから行なわれました。各県クラブの工夫を凝らした活動は参考になることがとても多く、質問も活発に出され、互いに有意義なものとなりました。閉会式では、仙台市地協子山会長から大会旗が次期開催地の沖縄県地協の宮城会長へ手渡されました。

この大会での、多くの方々との出会いや研修会で学んださまざまなことを大切にし、今後の活動に生かしていくたいと思います。

記仙台市地域子育て支援クラブ連絡協議会
副会長 佐藤 栄子

北海道・東北／関東・甲信越
平成十七年九月二十一～二十二日、北海道岩見沢市に於いて、北海道・東北・関東・甲信越ブロック研修会が開催されました。開会行事後、厚生労働省の鈴木専門官より行政説明があり、児童を取り巻く現状等を話されました。次に、ひきこもりで悩んでいる青少年達とともに生活し、自立への道を切り開いている安達俊子先生に「子供達が私の先生」と題して、講演をいただきました。

フォーラムは、不登校がテーマで、コーディネーターに、児童健全育成推進財団の鈴木一光常務理事を迎えて、パネラーは安達先生の他二名の方にお願いしました。パネラーの一人は、小学校入学直後に、我が子の不登校が兆候なく始まり、色々あつたが、今は高校生活動を楽しんでいるという母親の立場からの実体験を話されましたし、もう一人は名寄生涯学習推進アドバイザーをしている男性で、小中高の不登校の経緯を説明した上で、「自分はいなくなつた方がいいのではないかと考えたこと

もあつたが、その都度、サークルや部活動の仲間や先生に救われた」と自身の実体験から人間関係の大切さを話されました。

二日目は「母親クラブによる地域の安全づくりモデル事業」の事例発表を、盛岡市母親クラブ連絡協議会と群馬県太田市母親クラブの方々が行いました。北海道が全地協に加入して、初めての研修会です。打合せも当日を含め二日

た若い親達に対しても、母親クラブの会員が保育所・保育園「子育てサロン」などと連携を図り、協力することへの期待が述べられました。意見交換会は、ホテル法華クラブに会場を移して行われ、その席で門前女性合唱団による童謡のすばらしい歌声を聞かせてもらいました。また全員で合唱し楽しい時を過ごしました。二日目は、全地協から事業報告及びモデル事業概要報告がありました。続いて平成十六年度「母親クラブによる地域の安全づくりモデル事業」の事例発表が、岩手、群馬、福井、兵庫、山口、佐賀の各県のクラブから行なわれました。各県クラブの工夫を凝らした活動は参考になることがとても多く、質問も活発に出され、互いに有意義なものとなりました。閉会式では、仙台市地協子山会長から大会旗が次期開催地の沖縄県地協の宮城会長へ手渡されました。

この大会での、多くの方々との出会いや研修会で学んださまざまなことを大切にし、今後の活動に生かしていくたいと思います。

記仙台市地域子育て支援クラブ連絡協議会
副会長 佐藤 栄子

ブロック別研修会報告

間だけでした。研修会中は色々なハブニングもありましたが、多数の皆様の参加とご協力で無事終えることができました。ありがとうございました。

記 北海道地域活動連絡協議会
会長 永沼興子



【東海・近畿・北陸】

十月六・七日福井県福井市「厚生年金会館」にて開催されました。県内外より二〇〇余名が参加し、母親クラブのあり方や今後の活動について考える機会となりました。

一日目は、厚生労働省の鈴木雄司児童健全育成専門官より行政説明があり、子育てに負担を感じる保護者の現状が説明され、地域での新しい子育ての支え合いが必要と語られました。また自身が地域の蚊の駆除に成功した経験談は自主的に活動する母親クラブの参考となる興味深いものでした。続いて和田教育研究所和田周平所長に「子どもの心の原風景」と題して講演頂きました。原風景とは子ども時代の喜び、支え、悲しみ、怒り、痛みであり、人はそれをずっと抱いて生きることになる、それゆえ親や支える人の言葉や姿を通じて残ったよい原風景」と題して講演頂きました。原風景とは子ども

の「生きる力」となる。各人が自分の原風景を思い、改めて大人が子どもに与える影響の大きさについて考えました。その後のフォーラムではコーディネーターに児童健全育

【中国・四国／九州】

平成十七年十一月十・十一日に穏やかな秋晴れの中、香川県高松市で「ブロック研修会」を開催いたしました。

第一回目は、「開会式・行政説明・講演」が行われました。講演では、香川大の清國祐二助教授が「子どもの健やかな成長発達を支える要素（遊び・関わり・身体の重要性）」と題し、子ども達が将来、社会に適応するためには遊びの果たす役割が大きく、話され、子ども達が将来、社会に適応するためには遊びの果たす役割が大きく、

オーラムが、県内外母親クラブ等の参加者二百六十余名の方々のもと、行われました。講評と励ましのお言葉を頂き、二日間の研修会を終了しました。記 小林知美

第二回目は、「地域の安全づくりモデル事業」の発表があり、福井県鯖江市は福井豪雨により予算と時間のない中で立ち上げた子どもの見守り活動、兵庫県篠山市中野母親クラブのビデオによる発表は楽しく、地元より仲間もかけつけ、不審者に注意を促す人形劇を披露してくれました。それぞれが元気とやる気を与えてくれる内容でした。最後に鈴木専門官より講評と励ましのお言葉を頂き、二日間の研修会を終了しました。記 小林知美



和田周平所長、福井県児童館連絡協議会中山一郎会長、和田麗子ブロック長より各立場で今の親子について感じていることを話していました。気になる親の姿や家族の問題があげられ、親育ての大しさや子どもの視点に立った子育て支援こそ家庭と家族を守ることになるという意見が出されました。

一日目は、「地域の安全づくりモデル事業」の発表があり、福井県鯖江市は福井豪雨により予算と時間のない中で立ち上げた子どもの見守り活動、兵庫県篠山市中野母親クラブのビデオによる発表は楽しく、地元より仲間もかけつけ、不審者に注意を促す人形劇を披露してくれました。それぞれが元気とやる気を与えてくれる内容でした。最後に鈴木専門官より講評と励ましのお言葉を頂き、二日間の研修会を終了しました。記 小林知美



最後に私たち香川県地協にとりましては、皆様の参加とご協力のうえ、貴重な勉強と研修の場を頂きまして感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

記 芳地京子

砂遊びやおにぎっこ等を通じて子どもは危険から身を守る手段を学ぶ、ということをおっしゃられました。オーラムは児童健全育成推進財團常務理事鈴木光氏をして、引き続き清國助教授、香川県内での公設民営の児童館館長をされている長松広志氏、香川県地協の宮井会長をパネラーとして、さまざまな意見が交わされました。大人がさせたい子どもの将来と子どもが夢みている未来は違うことや、大人の方的な考え方を押し付けず、夢は努力して叶うことなどを大人が教えてあげるべき等、まさしくその通りだと思いました。

二日目は「平成十六年度母親クラブにおける地域の安全づくりモデル事業」事例発表を、山口県宇部市「みんなでまもろう子どもの安全」、佐賀県川副町「地域における児童の安全・安心づくり」という題目で発表して頂きました。ほんの数年前までは、「家の中で遊んでばかりいいで、外で遊んでよい」と、それが当たり前のようにでしたが、今では子どもを狙った悪質な犯罪が相ついでいます。悲しいことです。地域の方の連携した力で子ども達が安心して成長していくける社会を築いていくことが求められています。

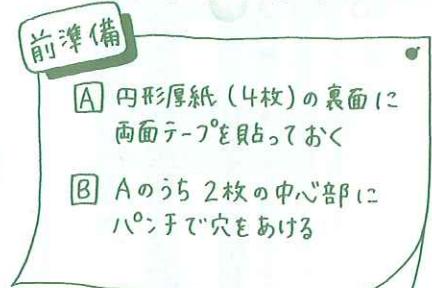
☆材料☆	
・ラッピングリボン(5mm×25cm)	16本
・片方を削った竹ひご(36cm)	1本
・円形(直径2.5cm)の厚紙	4枚
・ウッドビーズ	1コ 紙コップ
両面テープ	木工用ボンド
一穴パンチ	はさみ
千枚通し	

作り方

- ① Bを1枚だけ両面テープをはがし、少し重ねながら放射状にラッピングリボンを貼り付ける
- ② 残りのBをリボンをはさむように貼り付ける
- ③ Aの円形厚紙の1枚にリボンの端を放射状に貼る
- ④ 16本貼ったら残りのAをはさむように貼り付ける
- ⑤ ④で貼り付けた円形厚紙の中心部に千枚通しで穴を開ける

絵作：弓削留美子

キラキラしゃぼん玉



- ⑥ 竹ひごを大きい穴のところから通して、竹ひごの先端にウッドビーズをつけ、ビーズ・円形厚紙・竹ひごをボンドで固定する



親子で作ろう

北海道・東北ブロック

【児童事故防止のための活動】

私達きららクラブは「子ども達の健全育成」に努める心を先輩のお母さん達から受け継いで活動の大きな柱にしています。私達の主な活動のひとつは「児童の事故防止」です。新学期にあわせた、通園、通学路の安全点検では、用水路沿いのフェンスが破れていないか、大堀から小堀に水を流すハンドル場所の管理がきちんとされているか、子ども達が通る道路の木々の枝は伸び過ぎていないか、空屋に不審な物はないか、不審者は出入りしていないか等々を点検します。また、遊び場では遊具が常に安全に使える状態であるかどうかの点検をします。点検中にみつけた危険箇所や遊具の不備はその都度、役場の担当課に報告して、すぐに対処していただいている。

夏休み前には、パークに通う子ども達や遊びに行く子ども達が、交通事故にあわないよう横断歩道の所に「とまれ」の足型マーク塗装をします。梅雨時の晴間を狙つて早朝車の往来が少ない時間帯に、一~三人がひとグループになり、ベンキを塗る作業に取り掛かります。作業するにあたり、危険でないか回りを見ている人、ほうきで汚れを落とす人、ベンキで足型マークを塗る人等と役割を分担して、素早く何ヶ所も塗装します。これには後々微笑ましい光景が見られるというご褒美が揃えて、腕を高く上げ左右を確認して渡っています。そんなようすを思い浮かべながら四季折々に季節の花々をプランターに植え替える作業もまた、楽しいものです。

記 小牛田町きららクラブ会長 千葉裕子



関東・甲信越ブロック

【児童福祉の向上に寄与する活動】

当ブロックでは、地域性を生かし各クラブとも趣向を凝らして活動していますので、具体的な取り組みを紹介します。ぐんま地協は毎年五月、県庁開催の「こどもの日フェスタ」で母親クラブ活動を紹介する展示パネルを出展。また母の日にはこどもの国(県立児童館)で、「母親クラブフェスティバル」を実施。来場者数約四千人。口頭の活動を様々な手法で発表します。お芝居などのイベント、ワークショップでは巡回展示品・バルーンアート・マスクコット作り、パネルシアター、手芸など盛り沢山のプログラムで熱気溢れる一日です。

東京都地協では企業と共に、子育てセミナーを開催したり、「ふれあい子育て交流会」を行政と共に開催。母親クラブ・NPO・自主グループ・企業行政の子育て支援活動を展示し、パフォーマンスと講演会等を通じて広く一般に発表する機会を設けています。これらの活動の中心に居るのは、いつでも子ども達で、その育ちを助けるサポートとして多くの大人が関わり、活動を通じて互いになんとかして良い連携を図ろうとする努力があります。

中国・四国ブロック

【日曜等児童館利用活動】

今年度から、日曜等児童館利用活動の助成金が無くなりました。子ども達や保護者の方たちの期待も大きく、何とかしなくてはと思い悩んでいました。すると、県の担当課の方から「必要とされる活動に対して何かお手伝いしたい。児童館の助成金を増やしたので、今までどおり日曜等児童館利用活動を続けてください。」と言われ、今年度もこの事業を継続することが出来ました。これは県の担当者の方との交流もあり、気にかけて下さったから、

記 島根県地域活動連絡協議会
会長 兼折 美恵子



子どもを取り巻く様々な問題、とりわけ児童虐待と危険。

不安を回避するために、私たちが出来ることが出来ればならないことは、こうした交

流の場を多く持つて互いの問題意識を確認し考へることによって知ることです。こうした機会に、地域の人の顔を互いに知り合い、よく見える地域作りをする事も大事なことです。また、何よりも、子ども達の健やかな成長を願う私たちの心が健康であるために、地域を挙げての活動は、活動者の励みでもあり貴重な研修の場です。

記 東京都地域活動連絡協議会
会長 小林睦子



今があると感謝しています。

「日曜・祝日など児童館等を利用し、児童のための諸活動を推進します」という文章を、平成十五年度の全地協の総会において誓いの言葉に入れられてから、それに伴い活動を始めました。ところがいざ始めてみると、小学生や幼稚園の子ども達は、スポーツや学校行事等で本当に忙しく、各クラブや学校に予定等を問合せ、日程を決めるにも一苦労でした。でも、密に連絡し交流する事で各機関との連携がとれるようになりました。小学校の運動会に地域活動担当種目を入れてもらったり、地区行事の際に共催で子ども達の行事担当として入れてもらったりして、単独行事以外にもたくさんの活動が出来る様になりました。

幼稚園や小学校の子ども達が、参加しやすい形を作つてあげるのも大人の役目と感じました。今では、子ども達から「今年もやる?」「今月は何する?」「こんな感じで!」など目を輝かせて言つてくるのが一番の収穫だと思っています。やはり、子ども達や各機関との連携をもち、地域の子ども達は地域のみんなで育てるためにも土・日・祝日に活動をする事は、大事だと思つています。

東海・近畿・北陸ブロック 【児童養育に関する研修活動】

私達、みらい子育てネットおもしろ山は、スタッフが三世代そろっているのが特長です。孫を持つ世代、子をもつ世代、そして高校・大学生。そのため役員会においても様々な意見が飛びかいります。例えば、最近の青少年の犯罪や子どもの誘拐殺人事件などの問題点を挙げ、今私達ができる事を考える。世代を超えると受け取り方が違い、時には感心し反論もし、そして発見があります。私達のオリジナリティ溢れる行事はそんな議論を生かし「制作」され、その切磋琢磨の過程は正に研修の場といえます。

今夏の行事を紹介すると、タイトルは「おもしろ山ミステリー」。これはルパン四世から届いた暗号を解読すべく町内六つのポイントで謎(課題)をもらい解いていくというもの。6~7人のグループで地図を見、ポイントを探し課題に挑戦。途中夕食の材料を買ったり、工夫したりの課題もあります。最後はめでたく暗号解読。ルパンから「ごうびの花火が打ち上げられて、この日市内の花火大会で時間を見計らっての演出」屋上で花火観賞してお開き!。朝から晩までぎっしりのストーリー性のある行事です。

記 面白山児童センター母親クラブ
会計役員 大塙 昌子

私達は子ども達にメッセージを込めました。まず地域を知る。兄姉貴分のリーダーとの触れ合い。子供は全て守られるべき存在だという事。(地域住民に協力要請しパートナーとして見守り)。そしてグループでの連帯感と達成感。私達は行事を実践する中で地域の人と交流し、新たな行事に生かしていく。そしてこれも研修の一つの形だと思っています。

昭和四十九年四月二十八日南小倉児童館母親クラブとして発足し、早や二十一年が過ぎようとしています。児童館の中で育った子ども達が今は親となり私達は時代の流れに驚きます。昔も今も変わらないのは、やはり健全育成の願いです。地域の方々と一緒に活動し、力を合わせ人々とのふれあいをいかして「子育て支援の中の親と乳幼児」の活動の視野、個人の力では微力なものですですが会員の力を合せると意外に色々な事が出来ます。いつも行事を、と考えると不安を一様抱えてスタートをしますが、でも案ずるより生むがやすしの言葉の様に今日まで至っています。

去年の秋より毎週土曜日十二時からボランティア指導員の指導で卓球クラブを開催し、子ども達は、小さな手にラケットをしっかりと握つて未来の愛ちゃんを目指しがんばっています。

色々な可能性を持っている子どもが、いつも私達の児童館を良い思い出の場所として心に残し、時代と共に引きつがれて行つて欲しいと思います。

記 南小倉児童館母親クラブ
会長 丹波地憲子

みらい子育ネット ブロック別活動報告

九州ブロック 【親子及び世代間の交流、文化活動】



昭和四十九年四月二十八日南小倉児童館母親クラブとして発足し、早や二十一年が過ぎようとしています。児童館の中で育った子ども達が今は親となり私達は時代の流れに驚きます。昔も今も変わらないのは、やはり健全育成の願いです。地域の方々と一緒に活動し、力を合わせ人々とのふれあいをいかして「子育て支援の中の親と乳幼児」の活動の視野、個人の力では微力なものですですが会員の力を合せると意外に色々な事が出来ます。いつも行事を、と考えると不安を一様抱えてスタートをしますが、でも案ずるより生むがやすしの言葉の様に今日まで至っています。

去年の秋より毎週土曜日十二時からボランティア指導員の指導で卓球クラブを開催し、子ども達は、小さな手にラケットをしっかりと握つて未来の愛ちゃんを目指しがんばっています。

色々な可能性を持っている子どもが、いつも私達の児童館を良い思い出の場所として心に残し、時代と共に引きつがれて行つて欲しいと思います。

記 南小倉児童館母親クラブ
会長 丹波地憲子

研修会紹介

子育て(NPO)指導者養成研修会

大曾根母親クラブ
(つくば市)

会長 花村直子

私達大曾根母親クラブは「子育て指導者養成研修会」に出席し、研修を受けていく中で、これから子育ては地域からの支えが大事だと感じました。では、私達は地域のためにどんな活動ができるだろうか話し合いました。

現在、大曾根母親クラブには活動拠点とする施設(児童館)はありません。日々のクラブ活動ではデメリットである問題を逆手にとって屋外の遊び場に目を向け、子ども達がのびのびと思い切り自由に遊べる遊び場について考えて見ることにしました。遊び場作りを通して子ども達、子育てをする人、子育てをサポートする人々のネットワーク作りを活動目的とし、「親子で楽しく、つくるう!遊び場」とテーマを掲げて活動していくこととなりました。七月にはつくば市公園緑地課の方と大曾根地区の公園を何ヶ所か視察を行い、具体的にどこに遊び場を作るかを検討しました。十月には講演会でもお世話になつた矢郷恵子先生が、視察した後の助言から「ひだまり公園」に「どろんこ山」を作る事に決定しました。

実際に行なつた活動は、
(1)講演会：全国のプレーパークを手がけている矢郷先生による「冒険遊び場をつくろう」をテーマに講演会を開きました。母親クラブの活動としては初めての試みだったので、役員はじめとしたクラブ会員と一緒に自分たちが企画していることを実際にスライドで見ることが出来、先生からプレー・パークの話を聞くことが出来よかったです。講演会には大曾根母親クラブ以外の方にも足を運んで、



ひだまり公園「どろんこ山」

ただき、講演会の
後の意見交流会
も大きな刺激と
なりました。

(2)遊び会：
つくば市の「ゴン
タの丘」で活動さ

れている五十嵐先生に指導していただき、「どろんこ山で遊び会」を開催しました。

当日は天気にも恵まれ、どろんこ山という一見ただの山が子供たちの創意工夫によつて滑り台や泥だんご作り場、泥投げ合戦場になつたりと、色々な遊び方が生み出されました。子ども達も泥まみれになりました。ながら時間も忘れたかのように遊ぶ姿がありました。お昼時には地域のボランティアの人から、豚汁、おにぎりの炊き出しのサービスもあり、この活動の趣旨でもある地域のための活動の一歩が踏み出せたのではないかと感じています。

振り返つて見ると七月の研修会参加から始まり、企画立案・現場視察・活動決定・講師手配など活動準備に対する時間に余裕がなく、このような大きな地域活動は初めてだったこともあって色々と準備不足や知識不足が目立ちました。

しかしこの活動を通してメンバー同士の親睦が深まることはもちろんのこと、行政・地域の方々と知り合えることが出来、今後の地域の活性化へつなげることが出来たのではないかと思います。形にして「どろんこ山」が完成したわけですから、子ども達だけが遊ぶ遊び場ではなく大人も一緒に遊べるようレクチャーを受ける機会を設け、今後も様々な世代が一緒に活動していけたらと思います。

山形県地域活動連絡協議会

会長 竹内 峰子

山形県鶴岡市は去る十月一日に、

近隣市五町村による合併とともに

ない、東北の広大な土地面積と人

口十四万人という県都山形市に次

ぐ二番目の市に生まれ変わりまし

た。

本市は、今までの町村はもとより三世代同居家庭が多い地域にあつて、働く若い父母にかわり、子育ては祖父母が中心となり担つている家庭が多くあります。近年高齢化がす

すみ子育てと介護を共に背負う家

庭も増えつある中、世代格差の子

育て観の違いや生活環境の多様化、

価値観の相違等による、子育てや生

活等に対するストレスを抱えながら

の育児家庭が見られるようになりま

した。お互いに支え合い、助け合つて暮らしていく多世代同居家庭の良さには、親世代となつた自らの子

どもから今時の子育て法を見習い、

孫親世代となつた自らの父母から経験豊かな子育てのノウハウを伝授し

てもらいながらの家族みんなでの子

育てがある。一方、核家族化も進む中

で生後間もなくからの施設入所や、

母親が家庭での育児も多く見られ

ます。働きながらの育児も、家庭に

はいって子育てに専念するのも想像

以上に大変で、ストレスを抱えている

人もいます。しかし地縁者や地域の

方々の支援もあり、お互い様の気風

は今だ息づいています。



みんなで子育て研修会@山形

◎パパの言い分 ママの言い分
◎あなたのそばには、私たちがいるよ!

フォトギャラリー「お父さんの子育て」応募作品紹介

昨年末に「お父さんの子育て」をテーマにした写真を募集しましたところ、表紙に掲載した写真を含め、十一名の方々からご応募をいただき、ありがとうございました。ご応募いただいた皆様には事務局より記念品を差し上げます。



⑩



⑨



⑥



⑦



②



③



④



⑤

①「あ～ん」 いつまでも甘いお父さんです。
倉敷市五福母親クラブ 難波 夏子様

②「今日は晴れ！」
那覇市壺屋児童館 乳幼児クラブ 高木 由江様

③「ボクこんなに重くなったよ」
大雄母親クラブ「はんど・はんど」 遠藤 千秋様

④「肉炒めてみるか？やってみい！」
八幡浜市松蔭すくすくクラブ 岡田 幸江様

⑤「お父さん 出番ですよ！」
那覇市識名児童館母親クラブ 上原 かおり様

⑥「まだ子どもには負けないぞ～」
金沢市瓢箪地域組織活動育成クラブ 南 佳江様

⑦「父も一緒に秋祭り」
四国中央市松柏保育園地域活動クラブ 加地 知子様

⑧「昔遊び集会にて」
佐伯市とまちっ子クラブ 山崎 美土子様

⑨「入院中のわが子のもとへ、毎日母乳を運んでくれた父
七尾市ムーミンクラブ 谷口 寿恵様

⑩「つながり遊びにて」
小浜市宮川母親クラブ 前野 とし子様

児童館紹介

一 母親クラブを設立

函館市赤川児童館

二〇〇四年四月、函館市に二十五館目の赤川児童館が誕生しました。新興住宅街に近く、地域住民や子ども達にとって待望の開館でした。

新設にあたり「母親クラブ」設立依頼があり、児童館を利用した事もなく母親クラブの存在も知らなかつた私や多くの友人達は、取りあえずとの軽い気持ちで参加しました。成りゆきで会長を引き受け、何をしていいのか戸惑うばかりの母親クラブに対して、館長をはじめ厚生員の先生方から、適切な指導とやさしい心配りを受け、どうにかスタートする事ができました。

会員との約束は二点だけ、

一、最初から無理な事はしない。

二、まずは、自分が楽しもう。

手始めに、児童館の存在を広めようと六月第二土曜日『児童館まつり』の開催を企画。来館者千名を超えるほどの大盛況でした。地域の方々のご協力やご理解も得られ、母親クラブの団結も一気に深める事ができました。児童館の先生方には大いに手腕を発揮していただき、多くの部分では甘えてしまいました。

一 おやじの会も設立？

その後、りんご狩り遠足、三世代交流グランピング、餅つき会、新年お楽しみ会等様々な分野で、父親の参加協力もいただきました。今年度の児童館まつりの際に誰からともなく「こんな楽しみを母親クラブだけのものじゃなく、おやじの会も設立しよう」との

声も上がりました。行事の折りには顔見知りの姿がないと、「どうして参加しなかったの？」と聞いてきます。今年の餅つき大会には「おやじの会全員集合」と呼びかけて欲しいとの声が上がり本当に結成したつもりのようです。母親クラブの会員に、今までの活動を振り返り感想を伺いました。
 ●若いお母さん達と仲良く参加して元気をいただいています。
 ●子どもが、お手伝いをしている母親の姿を見て「お母さんとても楽しそうだね」と言つてくれます。
 ●転勤族なので地域に早く馴染め、学校や買い物で合うと気楽に声をかけてくれるので嬉しい。
 ●ヨガ教室や料理教室等の研修が受けられる。
 ●子ども共々次はどんな行事や教室があるのかとても楽しみ。
 ●我が子以外と接するのも楽しいものだと気付いた。
 ●等々

多くの会員が活動を通してステップアップしつつ、楽しく感じている事を生き生きと語ってくれました。赤川児童館は、連日たくさんの子ども達や児連れの若いお母さん達と母親クラブ会員で賑わっています。

記 函館市赤川児童館 母親クラブ

会長 住田晶子

